

研究課題名	眼内レンズ脱臼の背景についての後ろ向き研究
研究機関名および 研究責任者	さいたま赤十字病院 眼科部長 中川 卓
研究代表施設 および代表研究者	さいたま赤十字病院 眼科部長 中川 卓
研究期間	承認後 ～ 2024年 3月 31日
研究の目的と意義	高齢化社会の到来により白内障手術件数が近年では年間150万件を超えている。術後合併症として術後のIOL偏位・落下がある。IOL偏位が大きくなれば視機能障害を自覚し、さらに慢性炎症から続発緑内障に至ることもあり、硝子体内に落下する場合もある。このような場合、IOL2次挿入術（IOL縫着術、IOL強膜内固定術）が必要になる。過去の報告ではIOL偏位・落下の発症頻度は0.05%～3.0%と報告により大きく異なる。IOL挿入が標準術式になっている現在、IOL偏位・落下が増加している。今回我々は、IOL偏位・落下症例を後ろ向きに調査し、その危険因子および発生頻度を把握することを目的とする。
研究内容	2019年1月から12月に眼内レンズ偏位・落下を認めたすべての患者を対象とする。研究対象者基本情報として手術日、年齢、性別、術眼、IOL挿入期間、IOL固定状態、IOL偏位・落下グレード、IOL種類、IOLモデル名、CTR挿入の有無、術前矯正視力、危険因子として落屑症候群の有無、硝子体手術の既往、外傷の既往、ぶどう膜炎の有無、強度近視の有無、眼軸長、網膜色素変性症の有無、眼擦過癖の有無、眼合併症、IOL摘出・2次挿入として切開創、IOL摘出の有無、IOL切断の有無、硝子体手術併用の有無、IOL2次挿入法、術中・術後合併症、術後矯正視力を利用する。対象患者より取得した上記診療情報を用いる、介入・侵襲を伴わない後ろ向き観察研究。
個人情報の取り扱い	研究実施に係る情報を取り扱う際にはデータシートにパスワードを設定し、パスワード連絡票にて別途FAX連絡とすることで患者の個人情報が院外へ漏れないように十分配慮する。
問い合わせ先 (拒否等の受付窓口)	<b>【研究担当者】</b> 所属：さいたま赤十字病院 眼科部長 氏名：中川 卓 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心1番地5 電話：048-852-1111